



第10図

測定上に大きな影響を与えたとおもわれる要素はまだまだ未解決であり、電気抵抗値の連続測定などをあわせて大気腐食試験測定器として今後に残されているものが多い。さらに本研究の主目的である気象要因と腐食環境の相関については第2報で報告するつもりである。

文 献

- 1) 神山恵三・根本修: 気象研究ノート, 15巻4号, p 57 (1965)
- 2) 神山恵三・根本修: 気象研究ノート, 15巻4号, p 58 (1965)
- 3) 神山恵三・根本修: 気象研究ノート, 15巻4号, p 59 (1965)
- 4) D, Roller et al: Corrosion 16, 399t (1960)
- 5) D, Roller: PB-12089 (1955)
- 6) Lodge J.P. Jr. Frank E.R.: Int. J. Air. Poll. Vol 3, 249-52
- 7) Lodge J.P. Jr. Frank E.R.: Int. Wat. Air. Poll. Vol 6, 215-221
- 8) 日本学振薄膜第131委員会編: 薄膜工学ハンドブック, オーム社 II-32 (1964)
- 9) 飼沼芳郎: 物性物理学講座 10, 5, p 115 (1963)
- 10) 日本学振薄膜第131委員会編: 薄膜工学ハンドブック, オーム社 II-1 (1964)
- 11) 橋口隆吉: 金属学ハンドブック, p 628 (1962)
- 12) W.E. Garner: Chemistry of the Solid State, Butter Worths. Sci. Publ. London. (1963)
- 13) H. Levinstein: J. Appl. Phys. 20, 306 (1949)
- 14) R.S. Sennett and G.D. Scott: J. Opt. Soc. Am. 40, 203 (1954)

【正 誤 表】

1. 本誌13巻4号に掲載した「通風しない乾湿計の水蒸気圧算出公式」の部分の次のように訂正して下さい。

153頁 右下から6行目「参考までに」を削除					
154頁 表の第1行 乾球と湿球との差3.3は3.5と訂正					
154頁の表	乾球	乾球と湿球との差	湿度 (誤)	湿度 (正)	
	33	1.8	89	87	
	29	0.2	58	98	
	23	2.4	81	79	
	〃	2.6	79	78	
	15	5.0	84	48	
	-2	0.2	96	95	

〃	1.2	68	73	
〃	1.4	66	68	
-3	0.6	85	86	
〃	0.8	80	81	
〃	2.2	53	48	
-4	0.6	35	85	
155頁の表	乾球	乾球と湿球との差	湿度 (誤)	湿度 (正)
	38	9.0	43	49
	14	6.0	34	37
	10	8.0	9	5

2. 13巻6号, 221頁, 昭和41年度予算書, 支出之部の表, 4行目気象研究ノート, 1,400,000 を 1,300,000 と訂正